

FRACコード表日本版(2024年4月)



FRACコード表(1)

作用機構	作用点	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例)	殺菌剤の耐性リスク・備考	FRACコード
A:核酸合成代謝	RNAポリメラーゼI	PA殺菌剤 (フェニルアミド)	アシルアラニン	メタラキシル メタラキシルM	リドミル サブデューマックス	高/複数の耐性菌が発生。	4
	DNA/RNA 生合成(提案中)	芳香族ヘテロ環	イソキサゾール	ヒドロキシイソキサゾール	タチガレン	耐性菌未発生。	32
	DNAトポイメラーゼ II (ジャイロース)	カルボン酸	カルボン酸	オキソリニック酸	スター	不明/耐性菌発生。	31
	デノボリミジン生合成におけるジヒドロオロビドヒドロゲナーゼ阻害	DHODH殺菌剤	フェニルプロパンオール	イブフルフェノキン	ミギワ	中~高	52
B:細胞骨格とモータータンパク質	チューブリン重合	MBC殺菌剤 (メチルベンゾイミダゾールカルバメート)	ベンゾイミダゾール	ペノミル	ベンレート	高/広範囲の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。N-エニルカルバメートと負相関交差耐性がある。	1
			チオファネート	チオファネートメチル	トップジンM		
	N-フェニルカルバメート	N-フェニルカルバメート	ジエトフェンカルブ	スマブレンド、ゲッター、ブライア、ニマイバーの成分		高/耐性菌発生。MBC殺菌剤と負相関交差耐性がある。	10
	チアゾールカルボキサミド	エチルアミノチアゾールカルボキサミド	エタボキサム	エトトイソ	モンセレン	耐性菌未発生。	22
	細胞分裂(作用点不明)	フェニルウレア	ベンシクロン				20
	スペクトリン様タンパク質の非局在化	ベンズアミド	ビリジニルメチルベンズアミド	フルオビコリド	ジャストフィット、リライアルの成分	中/欧洲においてアドウベと病の耐性菌が発生。	43
	アクチン/ミオシン/フィンプリン機能	アリルフェニルケトン	ベンゾイルビリジン	ビリオフェノン	クロスアウト、カッショニ	中/耐性うどんこ病菌発生。	50
C:呼吸	チューブリン ダイナミクスマジュレーター	ビリダジン類	ビリダジン	ビリダクロメチル	フェキ	高	53
	複合体I NADH酸化還元酵素	ビリミジンアミン	ビリミジンアミン	ジフルメトリム	ビリカット	耐性菌未発生。	39
		ビラゾールカルボキサミド	ビラゾールカルボキサミド	トルフェンビラド	ハチハチ		
	複合体II コハク酸脱水素酵素	SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	フェニルベンズアミド	フルトラニル メブロニル	モンカット バシタック		
			フェニルオキソエチルチオフェンアミド	イソフェタミド	ケンジャ		
			ビリジニルエチルベンズアミド	フルオビラム	オルフィン		
			チアゾールカルボキサミド	チフルザミド	グレータム		
			フルキサビロキサド	イントレックス、ロンセラー			
			フラメビル	リンバー			
			インビルフルキサム	カナメ、ミリオニア、モンガレス		中~高/複数の耐性菌が発生。	7
			イソビラガム	ネクスター			
			ベンフルフェン	エバーゴル			
			ベンオビラド	アフェット、フルーツセイバー			
D:アミノ酸およびタンパク質生合成	複合体III ユビキノール酸化酵素 Qo部位	Qo殺菌剤 (Qo阻害剤)	セダキサン	ビブラランスの成分			
			N-メトキシフェニルエチルビラゾールカルボキサミド	ビジフルメトフェン	ミラビス		
			ビリジンカルボキサミド	ボスカリド	カンタス		
			ビラジンカルボキサミド	ビラジフルミド	バレード		
			メトキシアクリレート	アゾキストロビン	アミスター		
			メトキシストロビン	ピコキストロビン	メジャー		
			メトキシアセトアミド	マンデストロビン	スクレア		
			メトキシカーバメート	ビラクロストロビン	ナリア、シグナムの成分		
			オキシキミノ酢酸	クレソキシムメチル トリフロキシストロビン	ストロビー フリンク		
			オキシミノアセトアミド	メトミストロビン	オリブライ特、イモチエース		
E:シグナル伝達	複合体III ユビキノン還元酵素 Qi 部位	Qi殺菌剤 (Qi阻害剤)	オキサソリジンジオン	ファモキサドン	ホライズンの成分		
			ジヒドロジオキサジン	フルオキサストロビン	ディスアーム		
			ベンジルカーバメート	ビリベンカルブ	ファンタジタ		
			テトラゾリノン	メチルテトラプロール	ムケツ	高/耐性菌未発生。コード11のG143A突然変異株とは交差しない。	11A
F:脂質生合成または輸送/細胞膜の構造または機能	複合体III ユビキノン還元酵素 Qi 部位、スチグマテンリン結合様式	QoSI殺菌剤 (Qi, Qo部位)	シアノミダゾール	シアノフアミド	ランマン	不明であるが中~高と推測。	21
			スルファモイルトリアゾール	アミスルプロム	ライメイ、オラクル		
			2,6-ジニトロアニリン	フルアジナム	フロンサイド	低/耐性灰色かび病菌が発生。	29
D:アミノ酸およびタンパク質生合成	複合体III ユビキノン還元酵素 Qi 部位、スチグマテンリン結合様式	QoSI殺菌剤 (Qi, Qo部位)	トリアゾロビリミジンアミン	アメトクラジン	ザンプロ	Qoとは交差しない。耐性リスクは中~高と推測。	45
			AP殺菌剤 (アニリノビリミジン)	アニリノビリミジン	シプロジニル メバニビリム	ムケツ	
			ヘキソビラゾン抗生物質	ヘキソビラゾン抗生物質	ユニックス	中/耐性灰色かび病菌と黒星病菌が発生。	9
			グルコビラゾン抗生物質	グルコビラゾン抗生物質	フルビカ		
E:シグナル伝達	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒスチジンキナーゼ(os-2, HOG1)	PP殺菌剤 (フェニルビロール)	カスガマイン	カスミン	中/耐性糸状菌、細菌が発生。		24
			ストレプトマイシン	アグレブト、スマイ、ヒマイシン、マイシン		高/細菌病防除剤。耐性菌が発生。	25
			オキシテラサイクリン抗生物質	マイコシールド		高/細菌病防除剤。耐性菌が発生。	41
F:脂質生合成または輸送/細胞膜の構造または機能	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒスチジンキナーゼ(os-1, Daf1)	ジカルボキシミド	フェニルビロール	フルジオキソニル	セイビア	低~中	12
			イブロジオン	ロブラー			
			プロシミドン	スミレックス		中~高	2
F:脂質生合成または輸送/細胞膜の構造または機能	リン脂質生合成、メチルトランスフェラーゼ	ジオラン	ジオラン	イソプロヂオラン	フジワン	低~中/グループ内で交差耐性あり。	6
	細胞脂質の過酸化(提案中)	AH殺菌剤(芳香族炭化水素)	芳香族炭化水素	トルクロホスメチル	リゾレックス	低~中/複数の耐性菌が発生。	14
	細胞膜透過性、脂肪酸(提案中)	カーバメート	カーバメート	プロバモカルブ塩酸塩	ブレビクールN	低~中	28
F:脂質生合成または輸送/貯蔵	脂質恒常性および輸送/貯蔵	OSBP1 オキシステロール結合タンパク質阻害	ビペリジニルチアゾールイソキサゾリン	オキサチアブリオリン	ゾーベック エンカンティア、ゾーベック エンテクタ等の成分	中~高と推測。	49

記号と一桁の数字による組み合わせで、例えば「M1」に0を挿入して「M 01」のように標記することもあります。

FRAC CODE LISTより、国内で使用されている化学殺菌剤を抜粋しました[最新版はJ FRACホームページ(<https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)に掲載]。

FRACコード表(2)

作用機構	作用点	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例)	耐性リスク 備考	FRAC コード		
G:細胞膜のステロール生合成	ステロール生合成におけるC14位の脱メチル化酵素	DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤) (SBI: クラス I)	イミダゾール トリアゾール	ビペラジン	トリホリン	サプロール	3		
				ピリミジン	フェナリモル	ルビゲン			
				オキスピコナゾールフルマル酸塩	オーシャイン				
	ペフラゾエート	ヘルシード							
	プロクロラズ	スポルタック							
	トリフルミジール	トリフミン							
	シプロコナゾール	センチネル							
	ジフェノコナゾール	スコア							
	フェンコナゾール	インダー、デビュー							
	ヘキサコナゾール	アンビル							
	イミベンコナゾール	マネージ							
	イブコナゾール	テクリード							
	メトコナゾール	リベロ、ワークアップ							
	ミクロブタニル	ラリー							
	プロビコナゾール	チルト							
	シメコナゾール	サンリット、モンガリット							
	テブコナゾール	シルバキュア、オンリーワン							
	テトラコナゾール	サルバトーレ、ホクガード							
	トリチコナゾール	フリート							
	メフェントリフルコナゾール	ペランティー							
	トリアゾリンチオン	プロオコナゾール	プロライン						
	ステロール生合成のC4位脱メチル化における3-ケト還元酵素	KRI殺菌剤 (ケト還元阻害剤) (SBI: クラスIII)	ヒドロキシアニド	フェンヘキサミド	パスワード	低～中	17		
			アミノビラゾリノン	フェンビラザミン	ピクシオ				
	ステロール生合成のスクレンエボキンダーゼ	(SBI クラス IV)	チオカーバメート	ビリチカルブ	エイゲン	耐性菌未発生。	18		
H:細胞壁生合成	キチン生合成酵素	ポリオキシン	ペプチジルビリミジンスクレオシド	ポリオキシン	ポリオキシン	中	19		
	セルロース生合成酵素	CAA殺菌剤 (カルボン酸アミド)	桂皮酸アミド	ジメトモルフ	フェスティバル	低～中/欧洲においてフトウベト病の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。	40		
			マンデル酸アミド	ベンチアパリカルブイソプロピル	プロボーズ、ベトファイター等の成分				
イソベンゾフラノン			フサライド	レーパス					
I:細胞壁のメラニン生合成	MBI-R	ビロロキノリノン	ビロキロン	コラトップ	耐性菌未発生。	16.1			
		トリアゾロベンゾチアゾール	トリシクラゾール	ビーム					
		メラニン生合成のポリケタイド合成酵素	MBI-P	トリフルオロエチルカーバメート			トルプロカルブ	サンプラス、ゴウケツ	
P:宿主植物の抵抗性誘導	サリチル酸シングナル伝達	ベンゾチアジアゾール(BTH)	ベンゾチアジアゾール(BTH)	アシベンゾラルS-メチル	アクティガード	耐性菌未発生	P1		
		ベンゾイソチアゾール	ベンゾイソチアゾール	プロベナゾール	オリゼメート	耐性菌未発生	P2		
		チアジアゾールカルボキサミド	チアジアゾールカルボキサミド	チアジニル	ブイグット	耐性菌未発生	P3		
		イソチアゾールカルボキサミド	イソチアゾールカルボキサミド	イソチアニル	スタウト、ルーチン	耐性菌未発生			
	ホスホナート	ホスホナート	エチルホスホナート	ホセチル	アリエッティ	低/耐性菌報告事例がわずかにある。	P7		
	サリチル酸シングナル伝達	イソチアゾール	イソチアゾリルメチルエーテル	ジクロベンチアゾクス	ブーン、レシード	サリチル酸経路のサリチル酸の上流と下流を活性化する。	P8		
U:作用機構不明	不明	シアノセトアミド=オキシム	シアノセトアミド=オキシム	シモキサニル	カーゼート、ブリザード等の成分	低～中	27		
		ベンゼンスルホン酸	ベンゼンスルホン酸	フルスルファミド	ネビジン、ネビリュウ	耐性菌未発生。	36		
		フェニルアセトアミド	フェニルアセトアミド	シフルフェナミド	パンチョ、コナケシ	耐性うどん病菌発生。	U6		
		チアブリジン	シアノメチレンチアブリジン	フルチアニル	ガッテン	耐性うどん病菌発生。	U13		
複合体III(結合部位不明)	ビリミジンヒドラゾン	ビリミジンヒドラゾン	フェリムゾン	ブランの成分	耐性菌未発生。	U14			
	4-キノリル酢酸	4-キノリル酢酸	テブロキシン	トライ	Qo1とは交差しない。耐性リスク不明。中と推測。	U16			
	テトラゾリルオキシム	テトラゾリルオキシム	ピカルトラゾクス	ビシロック、ナエファイン	耐性菌未発生。	U17			
不明(トレハラーゼ阻害)	グルコビラノシリ抗生物質	グルコビラノシリ抗生物質	バリダマイシン	バリダシン	耐性菌未発生。トレハラーゼによる抵抗性誘導探索中。	U18			
未分類	不明	種々	種々	炭酸水素カリウム、炭酸水素ナトリウム、天然物起源	カリグリーン、ハーモメイト	耐性菌未発生。	NC		
M:多作用点接觸活性化合物	多作用点接觸活性	ジチオカーバメート (求電子剤)	無機化合物(求電子剤)	無機化合物	銅	Zボルドー、コサイド3000等	有機銅にも適用。	M1	
			無機化合物(求電子剤)	無機化合物	硫黄	サルファー、イオウ等			M2
					マンゼブ	ジマンディセン、ベンコゼブ			M3
					マンネブ	エムダイファー			
					プロビネブ	アントラコール			M4
					チウラム	チウラム、チオノック、トレノックス			M5
					ジラム	モノドクター			M6
					フタルイミド(求電子剤)	フタルイミド	キャタパン	オーソサイド	M7
					クロロニトリル(フタルニトリル) (作用点不明)	クロロニトリル(フタルニトリル)	TPN	ダコニール、バスポート	M8
					ビスグアニジン(細胞膜攪乱剤、界面活性剤)	ビスグアニジン	イミノクタジン酢酸塩	ペフラン	M9
					キノン(アントラキノン) (求電子剤)	キノン(アントラキノン)	イミノクタジンアルベシル酸塩	ペルクート	M10
					キノキサリン(求電子剤)	キノキサリン	ジチアノン	デラン	M11
		マレイミド(求電子剤)	マレイミド	キノキサリン系	モレスタン				
				フルオルイミド	ストライド				

全般的に低リスクとみなしている。